

生活クラブ生協 “もう一つのノーベル賞”受賞理由

受賞の理由について賞を授与した財団調査ディレクターであるポール・エイキンズ氏は以下の点をあげている。

- ①生協活動を通して、ただ物質的に豊かになることだけではなく、石けん運動やリサイクル運動の例が示すように、社会と環境を考えながら活動してきた。
- ②生産・消費・経営まで、共同購入活動などを通して組合員一人ひとりが責任をもつ、新しい経済の仕組みを創ってきた。
- ③大企業中心で市民が経済活動に参加しにくい中で、班組織による共同購入やその他の活動を通して民主的な経営参加の仕組みを創ってきた。
- ④子どもやお年寄りなど弱い立場に立つ活動、農業を守る共同購入などを通して、人間のための経済をめざし、助け合いの仕組みづくりをしてきた。
- ⑤運動が成功している。人間のための経済活動をしながら事業としても成功し、組合員の拡大活動や増資運動にみられるように共感をもつ人々が増えている。
- ⑥しかも驚いたことに、活動の主体が普通の主婦であること、だから運動が排他主義にも陥らず、エキセントリックでもなく、それゆえにこそ他の人々にも先例となって運動が拡大している。

出典：社会運動 1989年12月15日（117号）

もうひとつのノーベル賞 『現代社会の挑戦に立向う人々へ』 野村かつ子